

歳をとって伸びる能力がある。
それは人生を味わう能力。

京都（ゆづゆの里）

加藤 由理子様（66歳）平成30年11月入居 入居時一人入居

根性論無用の進学塾講師

中学受験の進学塾で受験算数を専門に教えていました。大学は法学部でしたが、「教科書裁判」を調べるうちに、教育に興味を持ったことからこの道に入りました。昔から子供が好きなんです。だから仕事はとても楽しく自分に合っていました。塾の子たちは割とモチベーションが高いので、私の役割は「こういう楽なやり方や方法があるよ」と教えてあげることです。スパルタ式も、根性論で頑張



入居してから再開したピアノ

れというのも好きではないので、塾の子たちには「効率よく受験に合格してもらおう」というのが私のポリシーでした。私が44歳の時母が要介護状態になりました。それを機に私は常勤の正社員から非常勤になりました。

父と母の最期の「教育」

母は初め背中の痛みを訴えていました。それが骨粗しょう症・圧迫骨折とわかりました。痛み止めの副作用で胃が悪くなり食欲がなくなりました。自宅の生活と入院を繰り返すうちに介護が必要となったのです。当時は介護保険法が始まったばかりで手厚く介護してもらいました。今のような人手不足もない良い時代でしたね。母の病院も歩いて10分位のところにあり、私は仕事をしながら充分に世話できました。私だけでなく父も見守りができる状態でしたし、母は「私は幸せ者だ」と言っていました。母が幸せに暮らして

いると私も幸せでした。

私は若い時から自分の老後を考えていましたが、実際に母もそして父も要介護になり、自分で行動ができなくなることを実感しました。それが両親の最後の「教育」でした。おかげで自分は元気なうちにホームに入居する決意ができました。

入居しても「仮説実験授業」の活動が続けられる

老後を「自分らしく楽しく生きる」ため、できることは全てやると決めました。介護や医療の安心があり、「やりたいことができる」のがホーム選びの条件です。どうしても続けたいことの一つに「仮説実験授業」という活動がありました。どのような活動かといえ、**「たのしい授業」**こそが、子どもたちの意欲と自信を生み出すという考えの下に、子供たちの知りたがる意欲に応える授業のやり方を研究し実践する活動です。例えば重力をテーマとした問題について、子供たちが自分で予想を立て、理由を述べ討論する。そして実験で答えを確かめるという方法です。そこでは、子供たちの自分で問題を考えようという動機を何よりも大切にします。子供たちも教える側も楽しい。この活動は一



生やつて行きたいです。

もう楽しい事しかしないと決めている

最近「第二の人生」という意味が分かってきました。歳をとると衰える事も多いけど、一方で伸びる能力もあると分かりました。それは味わう能力です。子供の時に5、6年習っていたピアノを最近再開したんです。子供の時は自分で習いたかって言っただけあんまり楽しくなかった。今は心から音楽っていいな、クラシックっていいなと思えるようになりました。

若い時と違う楽しみがある、それが第二の人生だと思えます。フラダンスも楽しい。まだ始めて1、2か月ですが、音楽に合わせて踊るのも楽しい。自分でもまだ身体が動かせると思うとそれもまた嬉しい・・・そういう事を考えられるようになりました。それも、早く入居できたおかげかな。